教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 健康・スポーツ科学科　　資格： 准教授　　氏名： 武岡　健次

研究分野	研究内容のキーワード
高齢者の転倒予防	高齢者、転倒予防、リハビリテーション
学位	最終学歴
修士（学術（健康科学））	大阪教育大学大学院 教育学研究科 健康科学専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.学友会　テコンドー同好会の部長	2020年4月現在	学友会　テコンドー同好会の部長を務める。
2.高校生への模擬授業の講師	2020年2月13日	高校生を対象に上肢、下肢のストレッチについて実技を通して模擬授業を実施した。
3.キャンプ実習　実習長	2017年7月2019年7月	武庫川女子大学、健康スポーツ科学科におけるキャンプ実習の実習長を務める。キャンプ実習の準備、人員配置、プログラム、登山、オリエンテーリングなどの事前学習など実務を遂行した。
4.ゼミ学生とコラボレーション活動	2014年04月～現在	ゼミ学生の演習授業の一環として、高齢者の転倒予防教室、付属幼稚園の園児の体力測定を実施した。武岡ゼミ学生は地域貢献、園児との交流により企画、運営する能力を身につけた。
5.スノースポーツ実習　担当教員	2014年2月～現在	スノースポーツ実習における危機管理、スキー講習会、実技講習を担当する。
6.双方向の授業の実践例（演習　実技）	2010年04月～現在	一般的な疾患である肩こり、腰痛に対して予防方法などを伝授する。例えば腰痛のある学生に姿勢の特徴や柔軟性、筋力などの評価方法を指導する。二人一組で姿勢、柔軟性、筋力を評価し腰痛の学生との違いを確認する。相違点や問題点を挙げ、腰痛の予防方法について意見交換を行う。
7.特色ある授業内容の実践例	2010年04月～現在	授業開始時に授業内容の概要を示し、学生に授業の見通し、目的、重要事項についての理解を深める。
8.学生の授業内容向上のための取り組み	2010年04月～現在	授業に関するアンケートを実施し、学生が興味を持っていること、関心があることにを理解し、具体的に取り入れ、授業内容の向上を目指す。
9.双方向の授業の実践例（学び発見ゼミ）	2010年4月～2016	学生の積極的な授業参加を促すため、興味のあるテーマについてプレゼンテーションを実施させ、質疑応答に対応させる。学生の不安、緊張を和らげるため発表前に事前にプレゼンテーションを試みる。結果として授業の中で自分の意見を伝えることについて自信を持つことができるようになる。
10.キャンプ実習　担当教員	2008年7月～現在	キャンプ実習の準備、人員配置、プログラム、登山、オリエンテーリングなどの事前学習など実務を遂行した。
11.健康・スポーツ科学科の担任業務	2008年4月現在	2008年度短期大学部1年担任、2012年度短期大学部1年担任、2014年度短期大学部1年担任、2016年度短期大学部1年担任、2018年度短期大学部1年担任、2020年度短期大学部1年担任業務を実施した。
12.演習、実技における教育上の創意工夫	2008年04月～現在	演習、実技では常に相手とコミュニケーションをとることができるか、筋力トレーニング、ストレッチなどの治療手技・目的を明確に伝えられるかを念頭において実技を行っている。
13.講義における教育上の創意工夫	2008年4月～現在	講義についてはパソコンを使用し、シンプルで理解しやすい講義を心がけている。学生の理解や好奇心を刺激するために理学療法、リハビリテーションにおける治療場面や疾患の特徴を画像やビデオを使用し、講義のポイントを明確に伝えている。
2 作成した教科書、教材		
1.老年期リハビリテーション学	2012年3月～2016	共通教育科目、老年期リハビリテーション学の講義資料として作成し、受講生の予習、復習、理解度を高めるためのテキストである。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
2.生活リハビリテーション学	2012年3月～2016	共通教育科目、生活リハビリテーション学の講義資料として作成し、受講生の予習、復習、理解度を高めるためのテキストである。
3.健康科学Ⅰ	2012年～現在	健康科学の講義資料としてパーキンソン病、脊髄小脳変性症、高齢者についてのテキストを作成した。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.家庭における転倒予防と座位トレーニングの実際	2023年5月11日	主催　生涯学習鳴尾大学講座 高齢者の転倒予防、座位トレーニングをテーマに壁と椅子などを用いて実施可能な筋力トレーニング、バランストレーニング、関節可動域トレーニングの効率的な方法について講演、実習を実施した。
2.高齢者の嚥下機能と対策	2022年2月18日	主催　阪神福祉センター 介護福祉施設における、高齢者の嚥下機能の低下によるリスクについて事例を紹介し、具体的な対策について講演を実施した。
3.生活リハビリテーションの必要性	2021年3月1日	主催　阪神福祉センター 介護福祉施設における、日常生活動作の維持を目的とする生活リハビリテーションの必要性について講演を実施した。
4.高齢者の嚥下機能について	2020年2月18日	主催　阪神福祉センター 介護福祉施設における、高齢者の嚥下機能の低下によるリスクについて事例を紹介し講演を実施した。
5.転倒予防と姿勢・歩き方	2019年5月21日	主催　豊能町　健康保健福祉センター 豊能町の高齢者の皆様を対象に、転倒予防について講演し、正しい歩き方について実技を加えて実施した。ビデオ撮影し改善するべき動作について適切に指導した。
6.高齢者の転倒予防　家庭でできる座位トレーニング	2019年5月9日	主催　生涯学習鳴尾大学講座 高齢者の転倒予防、座位トレーニングをテーマに壁と椅子などを用いて実施可能な、筋力トレーニング、バランストレーニング、関節可動域トレーニングの効率的な方法について講演した。
7.腰痛のメカニズム　腰痛体操　介護の方法	2019年4月2日	主催　阪神福祉センター 阪神福祉センターに入職する新人を対象に、腰痛のメカニズムを理解し、日常の生活、勤務時の注意事項について講演し、腰痛体操、介護方法について講義を実施した。
8.豊能町で健やかに暮らそう 転倒予防と歩行について	2018年11月11日	主催　豊能町　健康保健福祉センター 豊能町の高齢者の皆様を対象に、豊能町の地形を生かした安全なトレーニング方法や坂道の歩き方について実技を加えて講演を実施した。
9.転倒予防とウォーキング指導法	2018年9月15日	主催　豊能町　健康保健福祉センター 豊能町の高齢者の皆様を対象に、転倒予防について講演し、正しい歩き方について実技を加えて実施した。
10.生活リハビリテーションについて	2018年7月26日	主催　阪神福祉センター 介護福祉施設における、日常生活動作の維持を目的に生活リハビリテーションについて実演した。
11.鍛える必要がある下肢筋力　バランス・ストレッチ	2018年6月10日	主催　豊能町　健康保健福祉センター 豊能町の高齢者の皆様を対象に、転倒の要因なる下肢筋力の低下、バランスの低下、関節可動域低下に対して、家で簡単にできるトレーニングについて実技を加えて講演を実施した。
12.転倒予防とゆるやかフィットネス	2018年6月4日	主催　武庫川女子大学栄養科学研究所　講演 高齢者の転倒予防を目的に、有酸素運動を中心としたフィットネス運動を紹介し、安全で実施可能であるフィットネスについて講演を実施した。
13.高齢者の運動教室　寝たきり予防と簡単かべ体操	2018年5月10日	主催　生涯学習鳴尾大学講座 高齢者の運動をテーマに壁と椅子などを用いて実施可能な、筋力トレーニング、バランストレーニング、関節可動域トレーニングについて効率的な方法を実施し

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
		た。
14.転倒予防・自宅でできる簡単エクササイズ	2017年6月12日	主催　武庫川女子大学栄養科学研究所　講演 高齢者を対象に転倒のメカニズム、転倒のリスク、転倒しやすい時間や場所を理解して頂き、家の中で注意してもらう事はとても大事です。自宅で、安全で簡単にできるエクササイズについて講演を実施した。
15.高齢者の運動教室寝たきり予防と簡単かべ体操	2017年5月11日	主催　生涯学習鳴尾大学講座 高齢者の運動をテーマに壁と椅子などを用いて実施する、筋力トレーニング、バランストレーニング、関節可動域トレーニングを紹介し、安全で、効率的な方法を実施した。
16.新人研修　腰痛予防教室　講師	2017年3月28日	主催　阪神福祉センター 阪神福祉センターに入職する新人を対象に、腰痛のメカニズムを理解し、日常の生活、勤務時の注意事項について講演し、腰痛体操について実演した。
17.高齢者の運動能力機能評価	2017年3月1日	武庫川女子大学栄養科学研究所主催 一人暮らし高齢者応援フェスタにおいて高齢者の運動能力機能評価の項目についての意義や評価点数が低い場合に気を付けて頂きたいことについて分かりやすく説明した。
18.介護福祉施設における生活リハビリテーション	2017年2月14日	主催　阪神福祉センター 介護福祉施設で生活する、自閉症、ダウン症の利用者の日常生活動作の維持を目的に遊びを通じて運動を考案した。普段使用している新聞紙、風船などを使用し上肢の関節可動域向上、体幹の安定性向上などについての考え方と理論を講演し、実際の運動療法について実演した。
19.高齢者の運動教室寝たきり予防と簡単かべ体操	2016年11月10日	主催　生涯学習鳴尾大学講座 高齢者の運動をテーマに壁と椅子などを用いて実施する、筋力トレーニング、バランストレーニング、関節可動域トレーニングを紹介し、安全で、効率的な方法を実施した。
20.寝たきり予防と座ってできる（簡単エクササイズ）	2016年6月6日	武庫川女子大学栄養科学研究所主催 地域の皆様を対象に、寝たきりになるメカニズム、原因について説明しその対策として安全で簡単にできるエクササイズを図表などを通じて分かりやすく講演した。
21.肩こり、腰痛の予防とストレッチ講習会	2015年10月21日	学生部の学生さんに肩こり、腰痛の原因、発生機序について説明し、その対策となるストレッチ方法並びに正しい姿勢について講習会を実施した。
22.転倒予防の要因と簡単トレーニング	2015年09月26日	兵庫県教育委員会阪神教育事務所 芦屋市教育委員会　主催 転倒の要因に関する事例や家で簡単にできるトレーニングについて実技を加えて講演を実施した。
23.高齢者の運動教室　寝たきり予防と簡単かべ体操	2015年07月	主催　生涯学習鳴尾大学講座 近隣の高齢者を対象に、寝たきり予防のトピックスを紹介し、かべ体操の簡単な運動を実施した。
24.幼稚園児の走り方	2015年06月	武庫川女子大学付属幼稚園の先生方に、幼稚園児の走り方（脚の振り出し方、蹴り方、上肢の振り方、体幹の姿勢）について講演した。
25.寝たきり予防と簡単トレーニング	2015年06月	主催　武庫川女子大学栄養科学研究所　講演 近隣の高齢者を対象に寝たきりの弊害、予防、簡単なトレーニングについて講演を実施した。
26.生活と健康について	2014年10月	主催　UR都市機構 武庫川団地の高齢者を対象に日常生活における怪我や事故に対する注意点や健康に生活を送るための基本について講演を実施した。
27.園児の体力向上について　講師	2014年09月	武庫川女子大学付属幼稚園の保護者を対象に、体力測定を実施した結果を報告し、子供たちの体力向上について講演した。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
28.キッズスポーツ教室　講師	2014年08月	主催　スポーツクラブ武庫女 近隣の幼児、保護者を対象に運動の大切さ、運動の意義について講演し、家庭でできる運動について実演した。
29.武庫川女子大学付属幼稚園児の体力測定	2014年08月	武庫川女子大学付属幼稚園児を対象に、握力、開眼片脚起立、幅跳び、柔軟性、敏捷性の体力測定を実施した。
30.介助方法の考え方と理論　講師	2014年7月	主催　阪神福祉センター 新生園の職員を対象に利用者の介助の方法についての考え方と理論を講演し、実際の介助方法について実演した。
31.高齢者の体力測定	2014年07月	主催　武庫川女子大学栄養科学研究所 近隣の高齢者を対象に歩行スピード、開眼片脚起立、握力などの体力測定項目を実施した。
32.高齢者の運動教室　家庭でできる簡単トレーニング　講師	2014年7月	主催　生涯学習鳴尾大学講座 近隣の高齢者を対象に、転倒予防に関するトピックスを紹介し、椅子に座ってできる簡単な運動を実施した。
33.転倒予防と簡単トレーニング　講師	2014年6月	主催　武庫川女子大学栄養科学研究所　講演 近隣の高齢者を対象に転倒のメカニズム、転倒のリスク、転倒しやすい時間や場所、転倒に有効なトレーニングについて講演を実施した。
34.大阪府軟式野球連盟　指導者講習会　講師	2013年11月	大阪府軟式野球連盟　指導者講習会講師 軟式野球に関わるコーチ、監督を対象にコンディショニング支援、怪我の予防、救急処置について講義、実習を実施した。
35.転倒予防と体力測定　浜甲子園団地　講師	2012年07月	団地マネージメント研究会　講演 浜甲子園団地の高齢者を対象に転倒予防について講演し、歩行スピード、筋力、バランスなど基本的な体力測定を実施した。
36.新体操競技、カヌー競技の特徴とトレーニングの実際　講師	2011年06月	アスリートケア研究会　講演 アスリートケアの会員を対象に新体操競技、カヌー競技の運動特性とトレーニングの実際について講演した。
37.転倒予防教室　武庫川団地　講師	2011年02月	団地マネージメント研究会　講演 武庫川団地の高齢者を対象に転倒予防について講演し、転倒予防に役立つ基本的な運動プログラムを実施した。
38.新人研修　腰痛予防教室　講師	2008年3月2022年3月	主催　阪神福祉センター 阪神福祉センターに入職する新人を対象に、腰痛のメカニズムを理解し、日常の生活、勤務時の注意事項について講演し、腰痛体操について実演した。
4 その他		
1.武庫川女子大学健康・スポーツ科学部　広報入試委員	2021年4月2024年3月	武庫川女子大学健康・スポーツ科学部　広報入試委員としてオープンキャンパスの準備、管理運営、実務に務め、各入試の準備、人員配置、管理運営、実務に務めた。
2.武庫川女子大学　教学局　キャリアセンター常任委員	2010年4月2021年3月	キャリセンター常任委員として大学の学生の就職活動、キャリアアップの活動に務めた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.理学療法士	1988年04月	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.アスリートケア　理学療法士によるスポーツ選手への健康支援	共	2017年10月30日	三輪書店	小柳磨毅,上野隆司,武岡健次.藤本智久.三星健吾吉本陽二,元脇周也,濱田太朗,伊佐地弘基, 木村佳記,町田実雄,磯あすか,椎木孝幸 全国高等学校軟式野球選手権大会の支援　サポートの概要、サポートの変遷、サポートの内容、活動、今後の課題について構成されている。(pp.92～98)共
2.PT・OTのための運動学テキスト	共	2015年12月	金原出版株式会社	頚部・顔面を担当し、表情筋、顎関節について、基礎運動学、運動学実習へと段階的に進め、臨床運動学として顔面神経麻痺、顎関節症について図表などを活用してまとめたテキストである。(PP.担当部分15ページ)単
3.パーキンソン病の理学療法	共	2011年05月	医歯薬出版株式会社	奈良勲、松尾善美、依藤史郎、阿部和夫、大熊泰之、平岡浩一、浅井義之、丸山哲弘、長澤弘、望月久、武岡健次、宮本靖、鎌田理之、橋田剛一、岡田洋平、松屋綾子、小森絵美、内田賢一、石井光昭、佐藤信一、大久保智明、野尻晋一 パーキンソン病患者の姿勢異常について、特徴的な姿勢、原因、対策、四大徴候との関わりについて最近の知見を中心にまとめた。 パーキンソン病の姿勢異常が動作に与える影響として、重心と支持基底、座位姿勢、起立動作、寝返り、起き上がりについてまとめたテキストである。(pp.114～119)共
4.運動学要点整理ノート	共	2009年09月	羊土社	福井勉、山﨑敦、岩崎裕子、上田泰久、岡崎倫江、柿崎藤泰、具志堅敏、西條富美代、櫻井愛子、白星伸一、武岡健次、田中則子、中保徹、中俣修、望月久、和田祐一 理学療法士、作業療法士に必要不可欠な運動学を図表などを用いて、わかりやすく簡潔にまとめ上げたテキストである。(pp.22～29)共
5.理学療法MOOK「スポーツ障害の理学療法」スポーツ傷害と理学療法士（共著）	共	2009年04月	三輪書店	小柳磨毅、井上　悟、武岡健次、淵岡　聡 全国高等学校野球選手権大会を中心にスポーツ傷害に対して理学療法士が理解すべき発生のメカニズム、理学療法評価、治療プログラムについてまとめたテキストである。(pp.2～18)共
6.中枢神経障害理学療法学テキスト	共	2008年05月	南江堂	植松光俊,江西一成,大畑光司,田中昌史,宮本謙三,向井公一,隆島研吾,小田邦彦,古島譲,野口敦,山田和正,相澤純也,井崎義巳,西園みどり,今井公一,栗山裕司,指宿立,森岡周,森実徹,中川法一,井戸尚則,武岡健次 中枢神経疾患を中心に、症状概念、機能解剖、評価、治療プログラムについて簡潔にまとめたテキストである。(pp.325～336)単
7.アスレティックリハビリテーション　-やさしいスチューデントトレーナーシリーズ	共	2003年06月	嵯峨野書院	小柳磨毅,上野隆司,山野仁志,小林茂,小崎利博,有川功,舌正史,平木治朗,森憲一,千葉一雄,大工谷新一,武岡健次,鳥渕佳寿,福島隆伸,辻恵津子,中川誠一,相田利雄,吉本陽二,元脇周也,濱田太朗,伊佐地弘基,木村佳記, 木村佳記, 長谷川聡,町田実雄,森美穂,岡田亜美,磯あすか,菊池奈美,椎木孝幸,橋本雅至 アスレティック・リハビリテーションの総論と、各論として部位別と競技別のスポーツ傷害に対する実例から構成されている。アスレティック・リハビリテーションの入門書として最適である。(pp.95～102)共
2 学位論文				
1.高齢者におけるフォワードランジの運動特性	単	2005年3月	大阪教育大学　大学院教育学研究科　修士論文	フォワードランジの高齢群は前方および後方推進期において股関節伸展モーメントの最大値が減少していたことから、高齢群の大殿筋、脊柱起立筋、ハムストリングスなどの後面筋群の機能低下を反映していると推察された。
3 学術論文				
1.高齢者におけるフォワードランジ動作の運動機能評価としての可能性 査読あり	共	2011年12月	健康運動科学 1巻	武岡健次　構井健二 高齢者のフォワードランジ動作と体力測定項目について若年者と高齢者における有意差の有無、相関について検討した。(pp.31～36)
2.熱画像による靴の適合性評価の試み	共	2011年06月	日本医学写真学会雑誌2012　第49巻第2号	鈴木順一、河村廣幸、武岡健次 短時間で靴の適合性評価を可能とする,熱画像を利用した評価方法の検討を試みた。下肢足部に障害のない健常男性1名に対し,靴の適合性を皮膚の表面温度より検討した。赤外線サーモグラフィによる熱画像が,靴の適合性を評価するための1手段になる可能性が示され

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
				た。(pp.1～6)
3.小学生の運動能力と生活習慣の関連についての検討	共	2010年06月	関西臨床スポーツ医・科学研究会雑誌19	辻田めぐみ、山崎洋子、相澤　徹、松岡紗也香、武岡健次、三井正也、田中将、林義孝、真藤英恵 小学校の児童を対象に生活習慣のアンケート調査を行い普段の日常生活にどのくらい運動が取り入れているのかを調査した。(pp.17～20)
4.アマチュアボクシング選手のコンディショニングとパフォーマンスに関する研究	共	2010年06月	関西臨床スポーツ医・科学研究会雑誌19	相澤　徹、田端瑛子、永田かおり、松岡紗也香、武岡健次、三井正也、田中将、林義孝、田中繁宏、真藤英恵、樫塚正一、西良浩一、鈴江直人 体重階級制スポーツ競技者の減量、コンディショニングと試合の勝敗の関係について検討した。(pp.15～16)
5.女子大学生競泳選手の競技成績に影響を与える脂肪量および非脂肪量の検討	共	2010年06月	関西臨床スポーツ医・科学研究会雑誌19	相澤　徹、阿佐友季子、松岡紗也香、田嶋泰江、北田紀子、目連淳司、武岡健次、三井正也、田中将、林義孝、田中繁宏、真藤英恵 2005年から2008年までの4年間の体組成の変化と競技成績向上の関連性について検討した。(pp.17～20)
6.若年女性の生活習慣と脂質代謝に関する検討	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要　自然科学編　第56巻	森本明日香、藤井知久沙、相澤　徹、松岡紗也香、山本彩未、武岡健次、徳家雅子、三井正也、目連淳司、伊達萬理子、田中繁宏、樫塚正一 若年女性の生活習慣をアンケートにより調査し、脂質代謝との関連について調査した。(pp.15～22)
7.思春期女性の踵骨骨評価値に対する利き足の影響に関する検討	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要　自然科学編　第56巻	有吉　恵、相澤　徹、松岡紗也香、山本彩未、武岡健次、徳家雅子、三井正也、目連淳司、伊達萬理子、田中繁宏、樫塚正一 思春期女性の踵骨における骨評価値を利き足と非利き足を測定し、利き足の影響について検討した。(pp.7～14)
8.体組成と脈波伝播速度からみたし思春期女性の生活習慣病危険因子の検討	共	2009年03月	武庫川女子大学紀要　自然科学編　第56巻	高岸由佳、相澤　徹、松岡紗也香、山本彩未、武岡健次、徳家雅子、三井正也、目連淳司、伊達萬理子、田中繁宏、樫塚正一 体組成と脈波伝播速度を測定することにより、思春期女性に起こりうる生活習慣病の危険因子について検討した。(pp.1～6)
9.高齢者のフォワードランジにおける後脚の運動特性	共	2006年12月	四條畷学園大学 リハビリテーション学部　紀要	崎野祐吾,山田隆司,上野智浩,武岡健次,向井公一 高齢者のフォワードランジにおける後脚の運動特性を重心動揺計、床反力計を用いて分析し、前方への推進力を発揮するよりも、動作時の重心動揺の制動に機能することが示唆された。(pp.44～49)
10.スポーツ現場における傷害予防に対する試み	共	2005年06月	日本臨床スポーツ医学会誌　13巻3号	橋本雅至,小柳磨毅,武岡健次,境　隆弘,三谷保弘 スポーツ現場における理学療法士の活動を通じて実践しているスポーツ選書の傷害予防の取り組みについて紹介した。傷害予防の実現には、選手や指導者、スポーツ活動に関係するスタッフとの連携を図ることがきわめて重要である。(pp.391～397)
11.高齢者におけるフォワードランジの運動特性	単	2005年03月	大阪教育大学　大学院教育学研究科　修士論文要旨集　vol.5	フォワードランジの高齢群は前方および後方推進期において股関節伸展モーメントの最大値が減少していたことから、高齢群の大殿筋、脊柱起立筋、ハムストリングスなどの後面筋群の機能低下を反映していると推察された。(pp.53)
12.高齢者の身体特性と転倒予防について ―理学療法の観点から―	共	2004年05月	四條畷学園短期大学 リハビリテーション学科紀要 vol.2	武岡健次,小柳磨毅 高齢者における、加齢と体力・転倒の定義と現状・運動特性と評価・理学療法による転倒予防効果について文献的考察を行った。(pp.19～21)
13.足関節のバイオメカニクスとリハビリテーション	共	2004年03月	理学療法京都　33巻	小柳磨毅,雨夜勇作,向井公一,武岡健次,鈴木康三,佐藤睦美,木村佳記,中江徳彦 足関節の外傷として発生頻度の高い、外側側副靱帯損傷のリハビリテーションをバイオメカニクスの視点から検証する。(pp.41～44)
14.高齢者体力測定参加者の運動機能　-フォワードランジ計測の試み-	共	2003年12月	四條畷学園短期大学 リハビリテーション学科　紀要　創刊号　vol.1	武岡健次,向井公一,小柳磨毅,田中則子,大里和彦 高齢者の健康増進における一つの手段として体力測定を実施し、測定項目とフォワードランジ動作との関連を明らかにし高齢者の身体機能の簡易的な指標になる可能性について検討した。(pp.41～43)
15.徒手筋力検査による頭頚部癌頚部郭清術後の機能評価	共	1999年05月	頭頚部腫瘍　25巻2号	長原昌萬,佐藤武雄,吉野邦俊,藤井隆,稲上憲一,西本聡,桃原実大,寺田友紀,池田聖児,武岡健次,吉川正起 頭頚部癌患者に対して郭清術を施行し、患者の徒手筋力検査を行い、機能評価、経時的変化を報告した。（共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）(pp.217)
16.パーキンソン病患者	共	1999年03月	大阪府立看護大学	武岡健次，吉川正起，池田聖児,河村廣幸，小柳磨毅，淵岡　聡，林

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
の歩行障害に関する動作解析			医療技術短期大学部　紀要4	義孝 パーキンソン病患者に椅子に向かって歩行して座る課題を実施させ，この時の一連の歩行を３次元動作解析装置をもちいて分析した。結果，パーキンソン病患者では，歩行速度の低下，歩幅の減少，両脚支持時間の増加を認め，特に目標物に近づくにつれて顕著に変化することが明らかとなった。(pp.45～49)
17.パーキンソン病患者の 小刻み歩行の評価	共	1997年12月	大阪府立病院医学雑誌20（1）	武岡健次，七堂大学，山田保隆，河村廣幸，岡田光郎，小柳磨毅 パーキンソン病患者は歩行路が狭くなると小刻み歩行となる傾向が明らかになった。(pp.46～48)
18.パーキンソン病患者の姿勢保持障害の評価	共	1996年05月	理学療法13(3)	武岡健次，七堂大学，山田保隆，河村廣幸，岡田光郎，小柳磨毅，澤田甚一 パーキンソン病患者における傾斜刺激を用いて行った際の筋活動、重心動揺を表面筋電図、重心動揺計を用いて評価し、特徴について論述した。(pp.195～200)
19.パーキンソン病患者の姿勢保持障害の検討 -傾斜刺激による定量的評価-	共	1995年04月	理学療法科学10（2）	武岡健次，七堂大学，山田保隆，河村廣幸，岡田光郎，小柳磨毅，澤田甚一　パーキンソン病患者の姿勢保持障害を傾斜刺激に対する反応に着目し、パーキンソン病患者における下肢の関節運動の特徴を明らかにした。(pp.71～74)
20.高校野球全日本チームのコンディショニング	共	1995年03月	大阪府理学療法士会誌23	小柳磨毅，中山　朗，玉木　彰，淵岡　聡，境　隆弘，相川和久，武岡健次，林　義孝 高校野球全日本チームのAAAアジアジュニア選手権大会に，医科学面からサポートを行うスタッフとして参加した経験を基に，健康管理・障害予防対策の内容を報告した。(pp.57～61)
21.ｽﾄﾚｯﾁﾝｸﾞと筋力増強訓練	共	1995年01月	理学療法ジャーナル29（1）	小柳磨毅，山田保隆，河村廣幸，武岡健次 ストレッチングと筋力増強訓練についての最新の知見を紹介し、臨床への応用について論述した。(pp.12～16)
22.パーキンソン病患者の姿勢保持障害の検討 -傾斜刺激に対する反応による評価-	共	1994年11月	大阪府立病院医学雑誌17（1）	武岡健次，岡田光郎，七堂大学，山田保隆，小柳磨毅，澤田甚一 パーキンソン病患者の立位保持能力を傾斜刺激に対する反応による評価方法の妥当性について検討した。(pp.31～33)
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.キッズスポーツ教室の取り組み	単	2012年12月	乳幼児教育学会シンポジスト	武庫川女子大学付属幼稚園の園児を対象に前期1回、後期1回、時間は約2時間程度、キッズスポーツ教室を開催しました。園児の体力測定は楽しい運動や遊びの中から測定することが望ましく、入園から卒園までに運動能力の推移を分析することは園児の成長、発達の面からもとても重要である。保護者、教職員、学生が協力し合い、園児が体を動かす楽しさ、運動をする楽しみを積み重ねていく環境作りが必要不可欠であると考えられる。
２．学会発表				
1.Impact of Tunnel Vision on Riding a Bicycle	単	2024年5月18日	2024年運動休閒與餐旅管理國際學術セミナー　2024.4.15審査結果：採用	A negative correlation was observed between the field of view when wearing tunnel vision goggles and the speed of the bicycle riding in a straight line. Tunnel vision might occur when riding a bicycle in a straight line, resulting in increased fear and a consequent decrease in speed. The focus of vision when riding a bicycle in a straight line is the area ahead, which might explain the observed negative correlation between bicycle speed and wearing tunnel vision goggles. Tunnel vision might reduce the bicycle's speed, suggesting a connection with bicycle accidents. More detailed studies on environmental aspects such as lighting and road surface conditions affecting bicycle riding are necessary in the future.
2.Healthy town planning in Toyono -chō -The ability to exercise between older adults living in	単	2023年5月20日	International Conference of Sport,Leisure and Hospitality Management	Takeoka Kenji Rapid aging and a declining birthrate in Japan are causing many problems. For example, the increase in medical expenses is placing a heavy burden on Japanese citizens. Therefore, maintaining and activating the functions of towns are becoming difficult.Participants were older adults (N=25, age

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
mountainous areas and urban areas-				range=67-88, mean age=79.6±4.7) living in mountainous areas that could participate in a test of physical strength. Older adults (N=20, age range=65-87, mean age=74.5±6.5) living in urban areas that could participate in the test were used as the control group. It was suggested that the ability to exercise might be affected by social and cultural factors. The older adults that participated in this study are considered to have a high degree of independence, high health consciousness, and high motivation to exercise. It is thought that the living environment in mountainous areas and urban areas is involved in the motor function of the elderly.
3.高齢者の前方レッグリーチ動作	共	2019年9月	日本体力医学学会雑誌	武岡健次　木村佳記　多田周平　野谷　優　向井公一　小柳磨毅 高齢群21名（男性５名・女性16名）平均年齢72.8±5.2歳、若年群14名（女性14名）平均年齢19.4±0.5歳を対象に高齢者が立位から一側下肢を前方に移動させる（レッグリーチ）動作のスライド距離を若年群と比較し、膝伸展筋力、５m歩行速度、開眼片脚起立時間との関係を明らかにするである。 前方レッグリーチ動作のスライド距離は転子果長で標準化した（スライド比）。膝伸展筋力はMicro FET２を用いて測定し体重で標準化した。５m歩行速度は７ｍの歩行路に１ｍの助走路と減速路を設置して計測した。開眼片脚起立時間は両手を腰にあてた状態で姿勢を保持させ、遂行時間を測定した。 高齢群のスライド比（0.80±0.11）は、若年群（0.96±0.10）に比べて有意に小さく、開眼片脚起立時間（r＝0.54　p＜0.05）及び5m歩行速度（r＝0.46　p＜0.05）との間に正の相関を認めた。膝伸展筋力は有意な相関は認められなかった（r＝0.27　p＝0.24）。前方レッグリーチ動作のスライド比は、高齢者における簡便かつ客観的な運動能力の指標となることが示唆された。
4.豊能町における健康まちづくり　―都市部と山間部の比較―	共	2019年8月	台湾身体文化学会	武岡健次　三好庸隆 本研究では都市部と山間部に暮らす高齢者の運動能力の比較から運動能力の違いを明らかにすることを目的とする。高齢者の運動能力の実態を報告し、高齢者の地域的な特徴について検討した。体力測定に参加可能な山間部に住む高齢者25名、年齢67～88歳（平均79.6±4.7歳）を対象とした。対照群は体力測定に参加可能な都市部に住む高齢者20名、年齢65～87（平均74.5±6.5歳）とした。膝伸展筋力の項目では地形的に坂道が多く、日頃から歩く習慣があることが要因と考えられる。都市部の膝伸展筋力は山間部より低いことを示し、運動能力が社会・文化的影響を受けることが示唆された。今回参加していただいた高齢者は自立度が高く、自身の健康に対する意識および運動意欲が高いと考えられる。今後、高齢者の都市部と山間部の運動能力を比較し、地域における健康まちづくりに活かしていきたいと考える。
5.高齢者の後方レッグリーチ動作	共	2018年9月	日本体力医学学会雑誌	武岡健次　木村佳記　多田周平　野谷　優　向井公一　小柳磨毅 高齢者が立位から一側下肢を後方に移動させる（レッグリーチ）動作のスライド距離を若年群と比較し、膝伸展筋力、５m歩行スピード、開眼片脚起立時間との関係を明らかにする。対象は高齢群11名（男性２名・女性９名）平均年齢72.5±5.8歳、　高齢群のスライド比は、支持脚膝伸展筋力と正の相関、5m歩行スピードとの間には正の相関を認めた 後方レッグリーチ動作のスライド比は、高齢者における簡便かつ客観的な運動能力の指標となることが示唆された。
6.豊能町における健康まちづくりの試み Healthy town planning at Toyono-ch？	共	2018年8月	台湾身体文化学会	武岡健次　三好庸隆 少子高齢化問題を抱えながら、健康問題について積極的に取り組む豊能町と2017年４月に協定を結び、体力測定や筋力トレーニング、ストレッチング、歩行などのセミナーを実施した。セミナーの実施、アンケート調査、「いきいき元気ノート」の活用を通じて地域の皆さんとのコミュニケーションは必要不可欠であり、健康に過ごす為には、生活を取り巻くコミュニティが大切である。ただ長生きして寿命を伸ばすのではなく、生活の質を向上

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
				させ「健康寿命」を伸ばすために健康まちづくりが重要であると考えられる。
7.地域高齢者における食環境と身体状況の関連	共	2018年8月	日本予防医学会	秋田倫子　大滝直人　谷野永和　福尾惠介北島見江　武岡健次 本調査研究の趣旨を理解し、協力の得られた地域高齢者160名（男性17名、女性143名）を対象にした。地域高齢者において、買い物頻度とADLスコア、また、買い物移動手段と体重変化に有意な関連が認められた。しかし、食環境を示す食品購入店舗までの時間および移動手段、また、買い物頻度のすべての項目において、BMIや肥満の発生頻度および低栄養傾向の発生頻度との関連は認められなかった。
8.Current Status of Preschool Children's Participation in Sports Classes	単	2017年8月16日	2017 International Conference on Sports Policy and Leisure Tourism	Exercise is important for young children for improving physical strength and training ability, developing a healthy body, increase motivation, develop social adaptation skills, and cognitive abilities. However, places for exercising and opportunities to move their bodies are decreasing. It is important to provide children with time and space to move, including sports classes. Sports classes were conducted for young children (N=15), with "running," "jumping," and "throwing" as the main activities. Understanding each child's exercise ability is essential in sports classes. It is desirable for sports classes to improve children's exercise ability by making them enjoy exercise and play.
9.幼児のスポーツ教室参加の実態	単	2017年8月	台湾身体文化学会	幼児15名を対象に（走る・跳ぶ・投げる）をテーマにスポーツ教室を開催した。スポーツ教室では一人一人の運動能力を把握することが大切である。楽しい運動や遊びの中から運動能力を向上されることが望ましい。
10.地域一人暮らし高齢者における朝食と身体活動量との関連	共	2016年3月	健康体力栄養学会	大滝直人,谷野永和,今村友美、横路三有紀、矢野めぐむ、武岡健次、北島見江、福尾惠介地域の一人暮らしをスタートする高齢者の栄養面、体力面を対象に朝食の摂取量、カロリーと身体活動量の関連について報告した。
11.理学療法教育における参加領域の教育方法の検討 ― エコロジカルマップ作成の試み ―	共	2008年07月	第21回教育研究大会・教員研修会プログラム抄録集	向井公一・武岡健次 理学療法教育において、学生が受け身的に学ぶだけでなく、積極的に授業に参加し、今の自分の現状を把握し、問題解決の方法考える授業形態を試みた。(pp.40)
12.Characteristics of forward lunge exercise in elderly persons.	共	2007年06月	Program At A Glance World Physical Therapy 2007	KoyanagiM,Takeoka K,Mukai K,Higuchi Y,Tanaka N Knowledge of the characteristics of FL motion in elderly persons is useful for developing the movement therapy that improves motor function, prevents fall.Maximum step length and changes of COG with FL decreased in elderly group. These changes were mainly reflected in reduction of motion and moment on the both hip joints.
13.フォワードランジの運動特性 -高齢者と若年者の比較-	共	2004年09月	第59回日本体力医学会大会	武岡健次,向井公一,小柳磨毅,田中則子,樋口由美 高齢者が片側下肢を前方に踏み込むフォワードランジ（FL）動作を解析し、若年群との比較により運動特性を明らかにした。動作分析は運動計測装置（OMG社製VICON512）および床反力計（AMTI社製AMTI OR6）を用い、下肢の関節角度、床反力を算出した。(pp.368)
14.高齢者におけるフォワードランジ動作の運動特性	共	2004年06月	第39回日本理学療法士学術大会	武岡健次,向井公一,小柳磨毅,田中則子,大里和彦 高齢者のフォワードランジ動作時の下肢における関節運動を分析し運動特性について報告した。（共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）(pp.19)
15.フォワードランジにおける踏み込み動作の運動特性	共	2002年07月	第37回日本理学療法士学術大会	佐藤睦美,井上悟,木村佳記,橋本雅至,武岡健次,小柳磨毅 フォワードランジ動作時の踏み込み脚に着目し、関節運動と運動力学を解析し運動特性について報告した。（共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）
16.野球選手における肩甲上腕リズムの特異性	共	2002年07月	第37回日本理学療法士学術大会	上野隆司,小柳磨毅,武岡健次,加来敬宏,笹田篤史,中川滋人 高校野球選手の投球動作の反復が肩甲上腕リズムに及ぼす影響について論述した。（共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
17.フォワードランジ動作における下肢筋電図と動作パターンの分析	共	2002年02月	第13回大阪府理学療法士学会	木村佳記，佐藤睦美，井上悟，橋本雅至,武岡健次,小柳磨毅 フォワードランジは下肢の指示税と運動性を高めるトレーニングとして用いられている。フォワードランジにおける下肢の筋電図と動作分析についてまとめ論述した。 （共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）
18.頭頚部癌頚部郭清術後の機能評価	共	1999年10月	日本癌治療学会会誌34巻2号	長原昌萬,佐藤武雄,吉野邦俊,藤井隆,稲上憲一,西本聡,桃原実大,寺田友紀,池田聖児,武岡健次,吉川正起 頭頚部癌患者に対して郭清術を施行し、患者の徒手筋力検査を行い、経時的変化および日常生活の自立度について報告した。（共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）(pp.423)
19.パーキンソン病患者の歩行障害の評価	共	1998年05月	第33回日本理学療法士学会	武岡健次，吉川正起，池田聖児,河村廣幸，小柳磨毅，田中則子，林義孝 パーキンソン病患者において目標物が歩行に及ぼす影響について評価を行った。パーキンソン病患者の歩行障害として小刻み歩行やすくみ足が出現し、歩行速度、歩幅、両脚支持時間の割合について論述した。
20.腰痛教室の効果について	共	1994年11月	第34回近畿理学療法士学会	山田保隆,武岡健次,七堂大学,河村廣幸,岡田光郎,小柳磨毅 腰痛のメカニズムや腰痛教室における効果判定について論述した。 （共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）
21.パーキンソン病患者の姿勢保持障害の検討 -傾斜刺激に対する新しい試み-	共	1994年05月	第29回日本理学療法士学会	武岡健次，七堂大学，山田保隆，河村廣幸，岡田光郎，小柳磨毅，澤田甚一 パーキンソン病患者の姿勢保持障害に着目し傾斜刺激を用いて行う評価方法を考案した。パーキンソン病患者のステージと関連の高い定量的評価が可能となった。
22.老人における筋力増強について	共	1991年05月	第26回日本理学療法士学会	池田聖児,中川法一,千代憲司,森實徹,大里和彦,武岡健次,山内賢治 （SW）老人に対して最大筋力の1/3にあたる負荷を指標とし等張性訓練を24週間実施し老人の筋力増強効果について論述した。（共同執筆につき本人担当部分抽出不可能）
23.温冷刺激後の筋力増強効果	共	1990年02月	第1回大阪府理学療法士学会	武岡健次，御手洗雄一，中川法一，大里和彦，森實徹，横井徳彦，皮居達彦 筋力増強訓練施行する上で、温刺激、冷刺激がWarming-up効果として筋力増強に与える影響について論述した。
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
1.第56回関西学生体操新人選手権大会	単	2024年11月26日	セノーチャレンジカップ第7回関西学生体操大会	大会中の救護班として帯同
2.第69回全国高等学校軟式野球選手権大会		2024年8月		軟式大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
3.第106回全国高等学校野球選手権大会		2024年8月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
4.第29回　全国学童軟式野球大会		2024年7月		全国学童軟式野球大会（高野山）に、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
5.第96回選抜高等学校野球選手権大会		2024年3月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
6.第68回全国高等学校軟式野球選手権大会　参加予定		2023年8月		軟式大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
7.第105回全国高等学校野球選手権大会　参加予定		2023年8月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
8.第95回選抜高等学校野球選手権大会		2023年3月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
9.第67回全国高等学校軟式野球選手権大会		2022年8月		軟式大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
10.第104回全国高等学校野球選手権大会		2022年8月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
11.第94回選抜高等学校野球選手権大会		2022年3月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
12.第66回全国高等学校軟式野球選手権大会		2021年8月		軟式大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
13.第103回全国高等学校野球選手権大会		2021年8月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
14.第93回選抜高等学校野球選手権大会		2021年3月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
15.第64回全国高等学校軟式野球選手権大会		2019年8月		軟式大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
16.第101回全国高等学校野球選手権大会		2019年8月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
17.第91回選抜高等学校野球選手権大会		2019年3月		甲子園大会中、アスリートケア理事、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
18.第63回全国高等学校軟式野球選手権大会		2018年8月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
19.第100回全国高等学校野球選手権大会		2018年8月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
20.第90回選抜高等学校野球選手権大会		2018年3月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
21.第62回全国高等学校軟式野球選手権大会		2017年8月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
22.第99回全国高等学校野球選手権大会		2017年8月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
23.第89回選抜高等学校野球選手権大会		2017年3月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
24.第61回全国高等学校軟式野球選手権大会		2016年8月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
25.第98回全国高等学校野球選手権大会		2016年8月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
26.第88回選抜高等学校野球選手権大会		2016年3月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
27.第60回全国高等学校軟式野球選手権大会		2015年8月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
28.第97回全国高等学校野球選手権大会		2015年8月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
29.第87回選抜高等学校野球選手権大会		2015年3月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
30.第59回全国高等学校軟式野球選手権大会		2014年8月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
31.第96回全国高等学校野球選手権大会		2014年8月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
32.第86回選抜高等学校野球選手権大会		2014年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
33.第58回全国高等学校軟式野球選手権大会		2013年08月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
34.第95回全国高等学校野球選手権大会		2013年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
35.第85回選抜高等学校野球選手権大会		2013年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
36.第57回全国高等学校軟式野球選手権大会		2012年08月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
37.第94回全国高等学校野球選手権大会		2012年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
38.第84回選抜高等学校野球選手権大会		2012年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
39.第56回全国高等学校軟式野球選手権大会		2011年08月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
40.第93回全国高等学校野球選手権大会		2011年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
41.第83回選抜高等学校野球選手権大会		2011年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
42.第55回全国高等学校軟式野球選手権大会		2010年08月		軟式大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
43.第92回全国高等学校野球選手権大会		2010年08月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
44.第82回選抜高等学校野球選手権大会		2010年03月		甲子園大会中、理学療法士として選手のメディカルチェック、応急処置、クーリングダウンを実施する。
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.座談会　報告発表	単	2023年6月10日	アスリートケア学生研修会	アスリートケアにおける学生会員が参加可能な活動、選抜高等学校野球選手権大会、全国高等学校野球選手権大会、全国高等学校軟式野球選手権大会、全国少年野球選手権大会の見学、補助学生としての活動報告を紹介しました。
2.キッズスポーツ教室の取り組み	単	2012年12月	幼稚園の生活と教育-運動遊びを楽しむⅡ　担当部分について	水谷孝子　﨑山ゆかり　武岡健次　岩野康子　廣崎有美　塩井敬子　荒牧幸子　飯田真緒　伊東恵梨奈 H22年度より、健康科学研究部の活動として武庫川女子大学付属幼稚園の園児を対象に前期1回、後期1回、時間は約2時間程度、キッズスポーツ教室を開催しました。園児の体力測定は楽しい運動や遊びの中から測定することが望ましく、入園から卒園までに運動能力の推移を分析することは園児の成長、発達の面からもとても重要である。保護者、教職員、学生が協力し合い、園児が体を動かす楽しさ、運動をする楽しみを積み重ねていく環境作りが必要不可欠であると考えられる。(pp.136～141)単
６．研究費の取得状況				
1.パーキンソン病患者の歩行障害に関する動作解析	共	1997年	大阪府立看護大学医療技術短期大学部 平成９年度共同研究助成	パーキンソン病患者の歩行障害のひとつであるすくみ足が目標物の有無によって増悪する 現象を、ビデオ画像による解析システムにより下肢の関節運動、歩幅、身体重心の位置を 尺度として客観的に検証した。その結果、目標物の存在により患者の歩幅と前方への重心 移動量が減少し、すくみ足による歩行障害は増悪することが明らかとなった。
2.パーキンソン病患者の姿勢反応障害評価の検討―動的刺激における新しい試み―	共	1993年	財団法人　慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団 助成金（リハビリテーションの部）（単年度）	パーキンソン病患者の姿勢反応障害に対する定量的な評価方法として、床面の段階的な後方傾斜を利用したテストバッテリーを考案した。評価の結果は疾病の重症度分類とも相関が高く、臨床でも実施可能な簡便な姿勢反応障害に対する評価方法を確立した。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2011年04月～現在	日本医学写真学会会員
2.2002年04月～現在	日本体力医学会会員
3.1988年05月～現在	日本理学療法士会会員